

横十間川親水公園周辺緑地の現状・魅力・課題

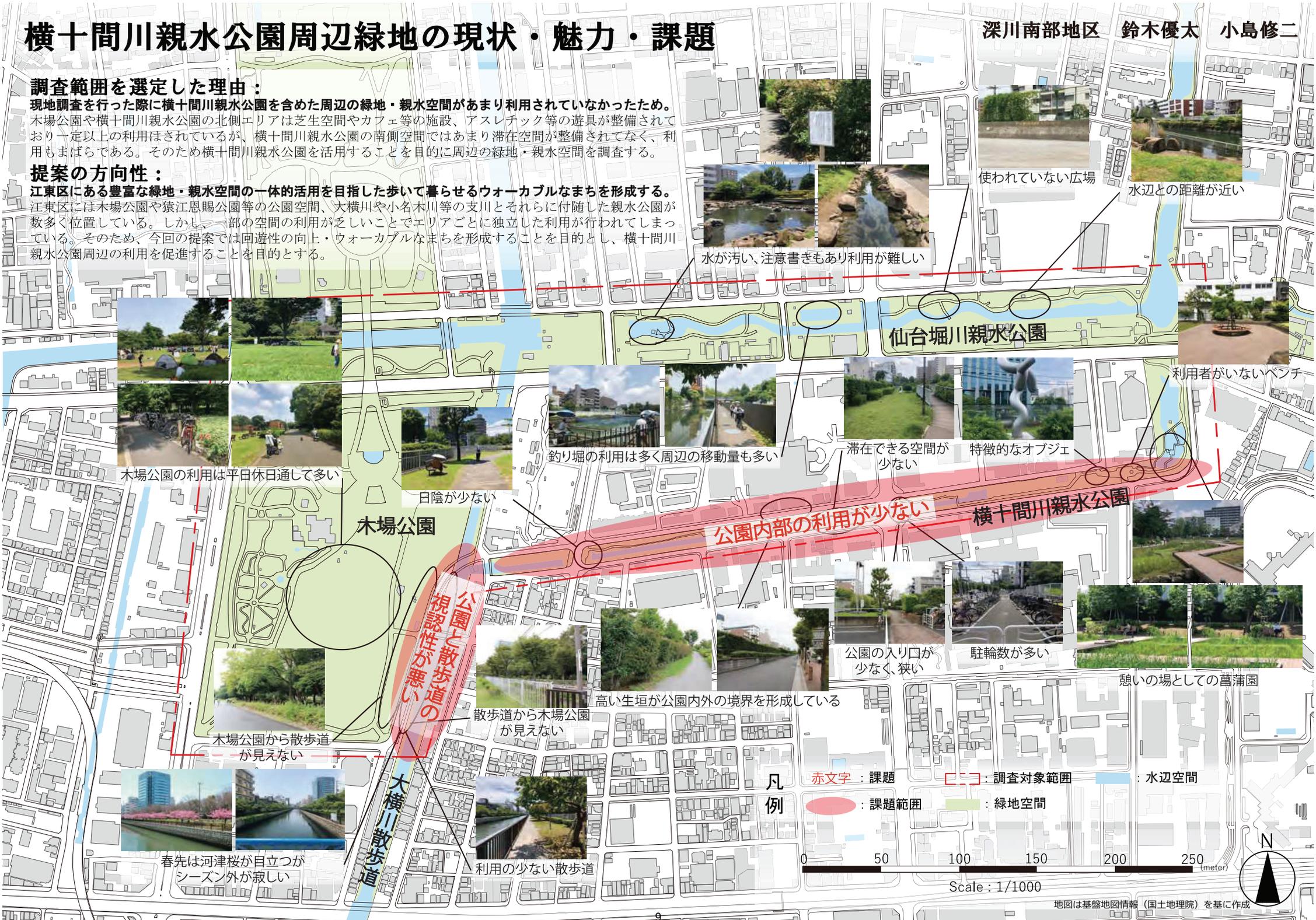
深川南部地区 鈴木優太 小島修二

調査範囲を選定した理由：

現地調査を行った際に横十間川親水公園を含めた周辺の緑地・親水空間があまり利用されていないかったため。木場公園や横十間川親水公園の北側エリアは芝生空間やカフェ等の施設、アスレチック等の遊具が整備されており一定以上の利用はされているが、横十間川親水公園の南側空間ではあまり滞在空間が整備されてなく、利用もまばらである。そのため横十間川親水公園を活用することを目的に周辺の緑地・親水空間を調査する。

提案の方向性：

江東区にある豊富な緑地・親水空間の一体的活用を目指した歩いて暮らせるウォーカブルなまちを形成する。江東区には木場公園や猿江恩賜公園等の公園空間、大横川や小名木川等の支川とそれらに付随した親水公園が数多く位置している。しかし一部の空間の利用が乏しいことでエリアごとに独立した利用が行われてしまっている。そのため、今回の提案では回遊性の向上・ウォーカブルなまちを形成することを目的とし、横十間川親水公園周辺の利用を促進することを目的とする。



水が汚い、注意書きもあり利用が難しい

使われていない広場

水辺との距離が近い

仙台堀川親水公園

利用者がいないベンチ

木場公園の利用は平日休日通じて多い

釣り堀の利用は多く周辺の移動量も多い

滞在できる空間が少ない

特徴的なオブジェ

公園内部の利用が少ない

横十間川親水公園

日陰が少ない

木場公園

公園と散歩道の視認性が悪い

公園の入り口が少なく、狭い

駐輪数が多い

憩いの場としての菖蒲園

木場公園から散歩道が見えない

高い生垣が公園内外の境界を形成している

散歩道から木場公園が見えない



春先は河津桜が目立つがシーズン外が寂しい



利用の少ない散歩道

凡例

- 赤字：課題
- 赤枠：調査対象範囲
- 水色：水辺空間
- 赤丸：課題範囲
- 緑色：緑地空間



Scale : 1/1000

地図は基盤地図情報(国土地理院)を基に作成



横十間川親水公園周辺緑地の活用に対する提案

提案①：大横川散歩道を見やすく！！

対象エリア



提案の目的

大横川散歩道の河津桜をより多くの人にとってもらい、人々が日常的に利用できる空間を形成する！！
大横川散歩道には約 105 本の河津桜の木があるが、あまり地域住民に認知されてなく、地域の資源として活用されていない。そのため地域資源の活用を目的とし、大横川散歩道および河津桜を生かした提案を行う。



大横川散歩道（河津桜） 河津桜
出典：東京散歩 四季のイベント、花の歳時記、食べ歩き

現状

木場公園と大横川散歩道が独立している！！

大横川散歩道と木場公園の間には木場公園に整備されている木々が生い茂っているため見通しが悪くなっている。そのため、大横川散歩道があまり活用されていない。



①木場公園側の境界 ②大横川散歩道側の境界
③大横川散歩道の景観 ④大横川散歩道

提案イメージ



地図は全て基盤地図情報（国土地理院）を基に作成

提案②：横十間川親水公園を利用しやすく！！

対象エリア



提案の目的

横十間川親水公園を人々が気軽に利用できる空間にする！！
横十間川親水公園は全長約 700m ある自然が豊かな遊歩道、公園として位置づけられている。しかし北側に比べて南側はあまり整備されてなく、利用頻度も少ない。そのため回遊性を目的とし横十間川親水公園を生かした提案を行う。



横十間川親水公園北側 横十間川親水公園南側

現状

横十間川親水公園が利用しづらい！！

横十間川は内水位低下方式で整備された河川であるため、周囲の道路よりも高い位置にあり、柵で囲割れている。そのため横十間川親水公園の入り口は少なく、あまり利用されていない。



①脇道側の境界 ②親水公園側の境界
③親水公園の景観 ④親水公園の入り口

提案イメージ



比較先進事例

札幌市創成川通り（北海道）

交通混雑の緩和や都心空間の有効利用を図った、地上部の緑地空間の整備。道路の地下化により空間を形成している。



整備前 整備後
出典：国土交通省資料

比較先進事例

宇喜田公園（江戸川区）

宇喜田公園の外周部は木々で覆われてないことで、開放的な空間が形成されている。また、公園内には「フラワープロムナード」という桜並木が整備されているが、こちらにも公園内外から見やすく整備されている。



桜の景観 公園内外の境界
出典：Google 出典：Google

- ・公園内から河津桜を見えるようにする。
- ・公園側の樹木の高さ、本数を減らす。
- ・近辺で花見を行えるように散歩道近辺に滞在機能（ベンチ等）を整備する。

提案のメリット

- ・地域の資源が活用される
- ・新たな魅力の一つとなる
- ・新たな観光資源を形成する

江東区からのアプローチ

- ・木場公園を管理している東京都建設局との協議
- ・江東区内の関わりのある部署間で協議（ex. 河川公園課、道路課等）

- ・現在の生垣やフェンス等の境界部を再整備、公園内外の見通しをよくする。
- ・境界部に歩行者用の歩道空間を整備する。
- ・公園内の芝生空間を滞在しやすく整備する。

提案のメリット

- ・地域の資源が活用される
- ・地域の新たな魅力の一つとなる
- ・地域内での回遊性の向上

江東区からのアプローチ

- ・江東区内の関わりのある部署間で協議（ex. 河川公園課、道路課、都市計画課等）